



# ナミビア通信

JICA 青年海外協力隊  
2023 年度 I 次隊  
エロンゴサ小学校  
吉野 葵  
2024 年 12 月 第 22 号

みなさんこんにちは。ナミビアの小学校で先生をしている吉野です。今回も日本の小学校が冬休み中ということで、ホームページ上で読んでくださる方に向けてこの記事を書いています。

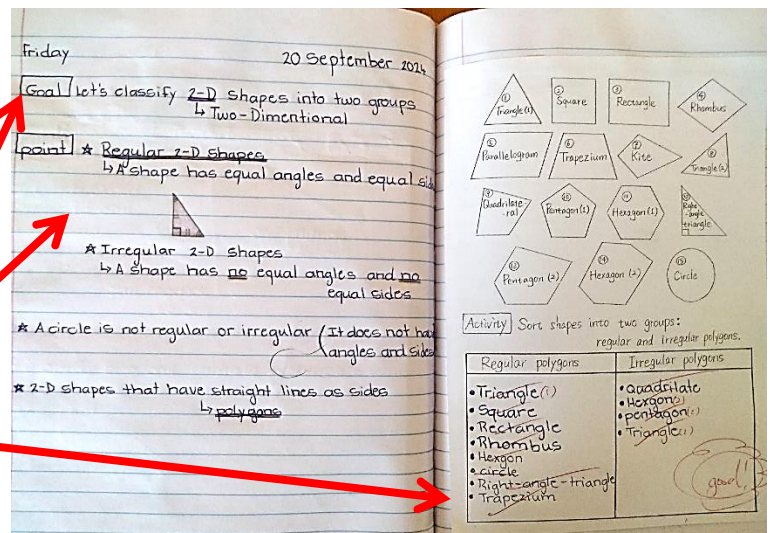
これが 2024 年最後のナミビア通信になります。今年 1 月に第 1 号を発行してから 1 年経ちますが、毎回私の記事を読んでくださり本当にありがとうございました。読んでくださった方から、「勉強になった」「面白かった」などと嬉しいコメントをいただけることもあり大変励みになっていたのと同時に、記事にすることで自分自身の経験したことを整理できるので、書いていて良かったなと思うことがよくありました。活動のことや学校のことはもちろん、旅行をした際も、そこで見たことや経験したことを家に帰ってから振り返り、さらに詳しく調べて記事にすることで、その時だけの感動に留めず思い出を残したり自分の知識を広げたりすることにもつながりました。来年もナミビア通信の発行を続けていきたいと思っていますので、引き続き読んでいただけると幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

## 1 年間の算数授業のまとめ

この 1 年間、算数だけに限らずアーツや情報の授業を任せていただいたり、日本とのオンライン交流会や日本文化フェスティバルを開催させていただいたり、私のやりたいことを自由にやらせてくださった配属先には感謝しています。おかげでこの 1 年間は良い意味でとても忙しく充実していました。その中でも、特に私がこの 1 年で力を入れた活動の 1 つが 4 年生の算数の授業でした。

### 日々の算数授業の流れ

- ① かけ算ソングを歌う。前時の復習等をする。
- ② 今日の授業のめあてを確認する (Goal)
- ③ 例題を使って解き方を考える。(Example)  
または大事な点をおさえる。(Point)
- ④ 練習問題を解く。(Activity)
- ⑤ 答え合わせをする。(Correction)  
(時間がない時は次の時間の始めに行う。)



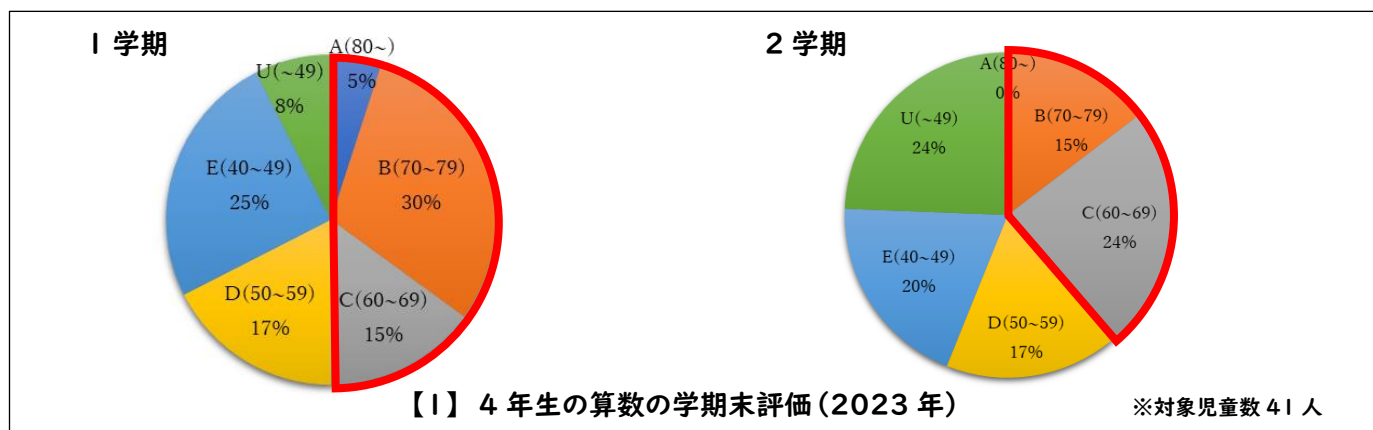
↑ 児童のノート

※ノートをこまめに確認し遅れている子を個別指導する。各単元のテストの前に復習プリントで練習する時間をとる。期末テスト前の 2 週間は、学習した全ての単元を 1 から復習し、練習問題をたくさん解く。

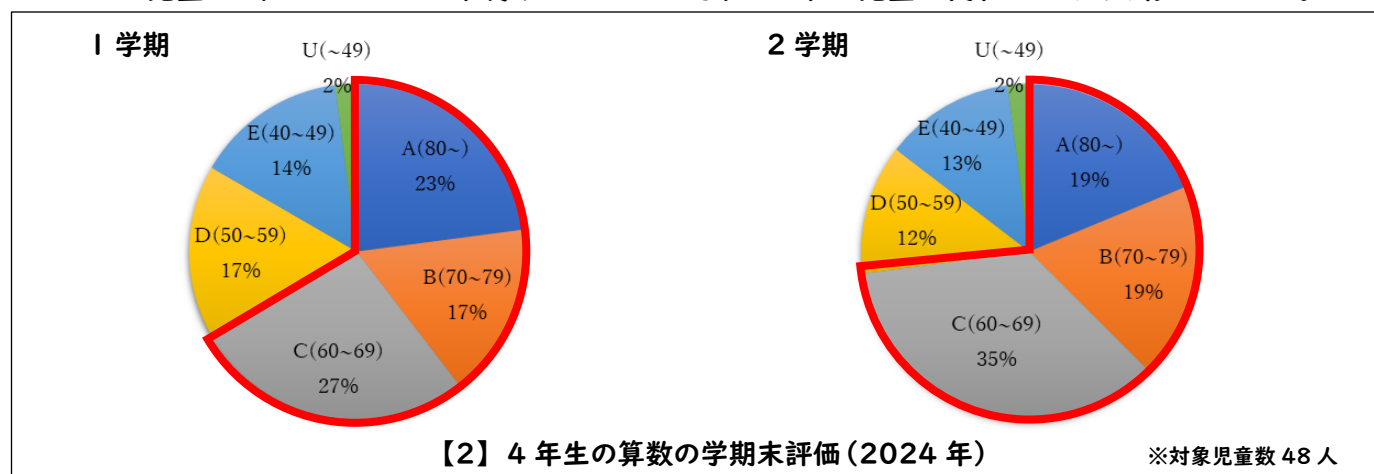
## I 年間の成果と課題

■ A(80~) ■ B(70~79) ■ C(60~69) ■ D(50~59) ■ E(40~49) ■ U(~49)

数値的な成果として、学期末の成績についてお話したいと思います。ナミビアでは、学期末にそれまでの授業の中で行った課題やテストなどを点数化したものと学期末テストの成績を総合して、最終的な点数を100点満点で出します。その最終評価が80点以上でA、70点から79点でB、60点から69点でC、50点から59点でD、40点から49点でE、39点以下はU（落第）という評価が付けられます。学年末に2つ以上の進級科目でUを取ってしまうと留年となります。参考までに、昨年（2023年）の4年生の算数の評価の内訳がこちら【1】です。赤で囲まれた部分がA、B、Cを取った児童、黄緑色はUを取った児童の割合です。



留年した子以外は入れ替わっているため、対象としている児童が異なり一概に比較することはできませんが、今年（2024年）の1年間、私が指導した4年生の成績がこちら【2】です。1学期には67%、学年末には73%の児童がA、BまたはCを取得することができ、Uを取る児童の割合がかなり減少しました。



課題としては、期末テストの5つの単元のうち、最もよくできていた「データ処理」の正答率が93%なのに対し、「長さ、重さ、容量」の単元は51%と大きく差が出てしまいました。この単元では、1cmごとの目盛りを書いて1m定規を作ったり、リットルますで色水の量を量ったりと子供たちの量感を育てるための活動を重視しました。1m=100cmなどの単位変換も繰り返し練習しました。テストでは「3m=3000cm」などの誤答があり、量感を身に付ける活動以上に単位変換などを復習しすぎて子供たちの頭の中で1cmや1mという長さの感覚よりも数値の暗記がメインになっていたことに気付かされました。本来、算数は暗記するものではありません。日常生活で算数的な思考や量感を使う機会の少ないナミビアですが、子供たちが感覚的に理解できるよう、日常であえて使う場面を作るなど授業以外での手立ても必要だと感じました。